

総合編

家庭での備え

大きな災害のときは、水道、ガス、電気や電話などのライフラインが途絶えることもあるので、数日は自力でしのげる備えが必要です。

▶ 非常持出品

万一の際に備えて、家庭では次のようなものをそろえ、定期的にチェックしておきましょう。

■ 必需品

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ・予備電池
- 飲料水(ミネラルウォーター)
- 非常食
 - 乾パン・缶詰
 - 携帯用の缶切りやナイフ
 - 紙コップ・紙食器 など
- 貴重品
 - 現金
 - 預金通帳
 - 印鑑
 - 健康保険証
 - 免許証(身分を証明するもの)
- 救急セット
 - ガーゼ
 - 脱脂綿
 - ばんそうこう
 - 目薬
 - きず薬
 - 胃腸薬
 - 包帯
 - かぜ薬 など
 - 消毒液
- タオル
- 衣類・下着類
- ロープ

■ その他 必要に応じて準備しましょう

- 携帯電話
- ティッシュ
- 軍手
- ろうそく
- マッチ・ライター
- 紙おむつ
- ほ乳瓶・粉ミルク
- 介護用品
- 雨具
- ヘルメット(ずきん)
- レジャーシート
- ラップ
- 洗面用具
- 石けん
- ドライシャンプー など

※さらにあると便利なものは、カセットコンロ、ビニールの袋、ウエットティッシュ、10円硬貨(公衆電話用)、筆記具等です。

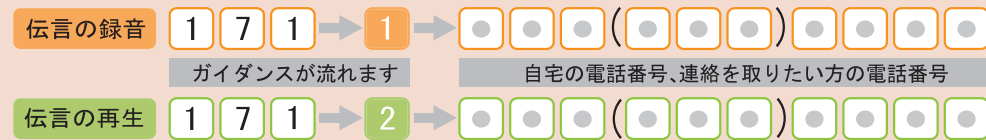
▶ 災害用伝言ダイヤル 171 を用いた安否確認・連絡

災害発生時(震度6弱以上の地震など)にはNTTの伝言ダイヤルサービスが稼働します。

災害用伝言サービスを活用しよう!

● NTT災害用伝言ダイヤル「171」

局番なしの「171」にダイヤルすると、簡単な方法で伝言の録音と再生ができます。



● 災害用伝言板

携帯電話各社が開設する「災害用伝言板」で、安否情報の登録と確認ができます。また、事前に設定した相手に情報を登録したことをメールで通知することもできます。



地域での備え

大きな災害のときは、町・警察署・消防署等の公共機関が十分に対応できない可能性があります。そんなとき、地域住民の協力体制が不可欠です。

▶ 自主防災組織の必要性

生き埋めなど、助けが必要な人のほとんどが、自力・家族や地域住民によって救助されています。「自分の命は自分で守る、自分たちの町は自分たちで守る」という精神で自分に適した地域の活動に参加しましょう。

平常時の活動

- ・防災知識の普及(講習会等)
- ・地域と各家庭での安全点検(危険箇所の確認、図上訓練)
- ・災害時要援護者等の把握
- ・防災用資機材の点検と整備
- ・防災訓練の実施



災害時の活動

- ・総務班:本部の設置および運営、各班との連絡調整
- ・情報班:災害情報の収集と伝達
- ・初期消火班:出火防止および初期消火
- ・避難誘導班:住民の避難誘導
- ・救出救護班:災害時要援護者の安否確認、保護



▶ 災害時要援護者への協力

災害時要援護者とは、災害時において、適切な防災行動をとることが特に困難な人々です。このような方々は大きな災害のとき、情報把握・避難・生活の確保など困難な状況におかれまます。みんなで協力し合い、積極的に支援するよう心がけましょう。

高齢者・病気の人には



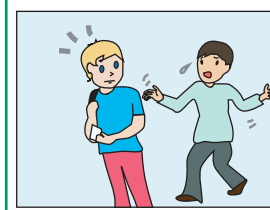
複数の人で対応しましょう。急を要するときはひも等を使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。

からだの不自由な人には



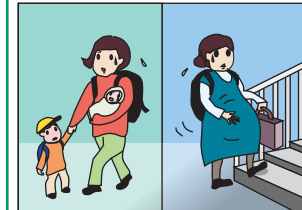
それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車椅子の場合は、必ず3人で協力し、階段を上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。

外国人・旅行者の人には



外国語がわからなくても、身ぶり、手振りで話かけ、孤立させないことが大切です。

乳幼児・妊婦の人には



乳幼児はひも等で背負い避難しましょう。また、お腹の大きな妊婦さんは身体が思うように動かないので気を配りましょう。